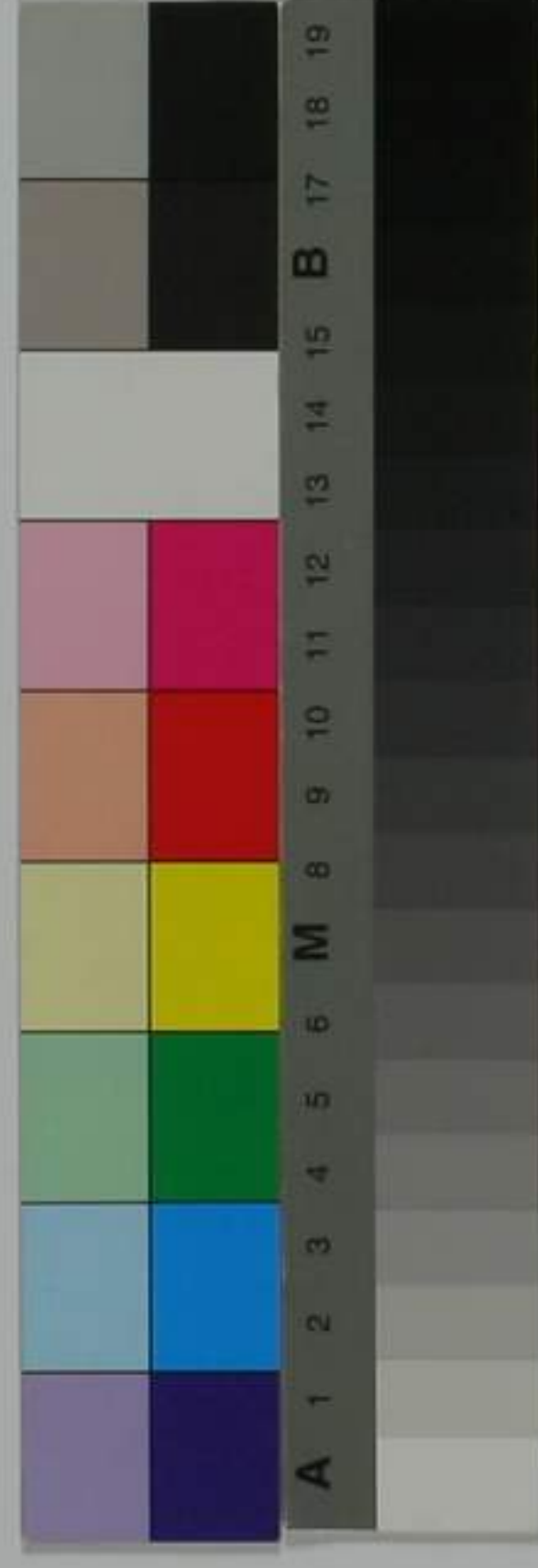


おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう

おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう
おはなれ 御座りませう

2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3



一葉草稿



特別
文庫14
A94



樋口一葉原稿断片



わが著者 明治文學史
天澄 昭和 亦所収
昭和四十二年九月記

この稿とつゝ樋口家の藏にかゝる乞ふ得くわが有るを作家とし
ての一筆の態度を規らるゝの屈強の資料あり拙著明治文學史下巻
に収む裝潢をわが好みなり

木村久雄識

